

ト★ 東星学園だより

TOSEI

東京都清瀬市梅園 3-14-47 TEL 042-493-3201 <http://www.tosei.ed.jp>

□ 西武池袋線秋津駅 南口 徒歩 10分 □ JR 武蔵野線新秋津駅 徒歩 15分

vol. 15

「神は責任を感じています」

校長 大矢 正 則

昨年の日本のカトリック教会における最大の出来事は、教皇フランシスコの来日に間違いあるまい。

カトリック学校である東星学園にとっても、それは大きなお恵みだった。学園全体を挙げて歓迎し、共に祈った。

2019年11月25日。小学校4・5・6年生は、朝から貸し切りバスで東京カテドラルに向かった。『青年との集い』のために、カテドラルに移動して来られる教皇様をお出迎えするためと、『集い』終了後に教皇様をお見送りするという大役を東京大司教区からいただいたからである。小学生は青年ではないので『青年との集い』そのものには出席できない。およそ1時間の『集い』の間、カテドラルの外庭にあるルルドのマリア様の前で、家から持ってきた昼食を食べながら待ったのだ。

今回の教皇様の訪日では、羽田でのお出迎えから始めて、教皇様の行く先々で、カトリック学校の児童・生徒が様々な役割を分担したのであるが、その1つが、この『青年の集い』でのお出迎え・お見送りなのであった。この役割は、本校を含め、都内の4つのカトリックの小学校（暁星小学校、晃華学園小学校、田園調布雙葉小学校と本校）が選ばれたのであるが、非常に光栄であるのみならず、大変な幸運でもあった。なぜならば、ご到着お迎えの際も、ご出発お見送りの際も、「もう、すぐそこ！」。まさに、手が届くような距離（やや大袈裟。でもない）で教皇様とお目にかかることができたからだ。私ももちろん感動したが、児童の中には感動のあまり泣き出す者もいた。普段のその児童の様子からは想像できないことだったので少し驚いた。しかし、普段、宗教の授業をぼんやりと（？）聞いている子どもの心さえ、そのお姿だけで揺らすのであるから、やはり教皇様である。私も（児童がいるので小さい声ではあるが）叫んだ！「教皇様！パパ様！」

中高生は、後期中間テスト初日であったため、皆、どうしようかと思った。

日本カトリック学校連合会というところから、東京ドームミサ参加希望の生徒人数を聞かれていたので、席は用意されていた。そこで、やはり希望者を募るこ

とにした。ただし、参加申込にあたっての留意点の1番として、「当日は、後期中間試験の1日目に当たります。試験期間の変更はありません。ミサに参加することを考慮して、余裕をもって試験勉強をしておいてください。」と申込用紙に書いておいた。引率希望の先生方も多かった。それでも、参加希望の生徒の人数の方が多かったのでホッとした。学校として教皇様司式の東京ドームミサに参加するのに、参加生徒よりも引率教員数の方が多かったら、まあ、それはそれで、先生方が宗教に熱心ということになるのかもしれないが、なんか、変だ。定期試験の初日とはいえ、「行きたい！」と希望してきた生徒数が、引率教員数を上回ったことは、やはりよいことだと思った。少人数教育のカトリック校ならではの醍醐味かもしれない。

東京ドームミサは、これまた感動した。3泊4日の強行スケジュールをこなす教皇様の3日目の午後の時間。この日の午前中には天皇陛下ともお会いになっているし、ドームミサの後には、日本を含む各国首脳との面会も控えている。教皇様は相当お疲れのはずなのであるが、ミサ前には、オープンカー（パピモービル）に乗って、場内を1周され、途中、何人もの赤ちゃんを抱きあげられ祝福しておられた。「パパ様に近づきたければ赤ちゃんになることだ」とは本当だった。

ここまで、その日の感動をそのまま書いてきたが、最後に、東京ドームミサでの、教皇様のメッセージ（説教）から引用したい。

「個々の人や状況を判断する唯一有効な基準は、神がご自分のすべての子どもたちに示しておられる、いつくしみという基準です。」

ここで、「いつくしみ」は「憐れみ」と訳した方が適切なのだと思われる（森一弘著『教皇フランシスコの「いのちの言葉」』 扶桑社 p.56～59）。憐れみとは、いともたってもいられない気持である。

教皇様はいつくしみの特別聖年の勅書でこうも仰っている。「神の憐れみはわたしたちに対する神の責務なのです。神は責任を感じています。神は、わたしたちが幸せで、喜びと憂いなく生きている姿を見たいと望んでいるのです」（同 p.73）

神様が私たちに責任を感じてくださっているのだから、私たちは勇気をもってこの学校で福音の喜び（神の憐れみ）を知らせ続けていきたい。

中学校・高等学校

中等部 3 年生学習旅行

学習旅行企画委員長 中等部 3 年 I・M

私たち中等部 3 年生は学習旅行地を「新潟県佐渡市」とし、テーマを「邁進」としました。佐渡は自然が豊かで国の天然記念物のトキと触れ合うことができます。私たちは実際に野生のトキを見ることができませんでしたが、飼育されているトキの観察をし、お話を伺うことができました。また、各班活動では金山の坑道見学や佐渡でしか採れない赤玉石を使ったキーホルダー作り、砂金採り、魚釣り、佐渡独自の無名異土を使った陶芸体験、地元の方との交流など実際に佐渡の様々な文化に触れることで、全身で佐渡の自然を感じることができました。

また、学習旅行の企画を進める中でクラスの皆や先生との意見の食い違い、旅行の延期など様々な困難がありました。邁進というテーマの通り、どんな困難にもひるまず突き進み、無事に学習旅行を終えることができました。インターネットで調べるだけ、人から聞くだけでは絶対に感じられないことを感じ、そしてなによりたくさんの思い出ができました。佐渡での経験、思い出をそれぞれが大切にしながら、これからも良い学園生活を送ってまいります。



体育祭を終えて

体育祭委員長 高等部 3 年 K・N



今年の体育祭は、台風や当日の雨による影響で開催が困難かと思われましたが、プログラムを変更しながら先生方と生徒が一体となり作り上げることができたと感じています。

東星学園の体育祭

は、幼稚園児から高校生まで全員が揃って行われることに良さがあります。同じ敷地内で過ごしていても普段はあまり関わることのできない仲間と協力することは貴重な時間であり、東星学園ならではの体育祭だと思います。私にとっては東星学園での最後の体育祭となり、高校女子演技発表では同級生有志とともに振り付けを考え、とても思い出深い体育祭となりました。

今年は大変な体育祭となりましたが、皆が無事に集うことができ、開催できたことに感謝します。前日に準備をして下さった先生方、雨の中応援しに来て下さった保護者の方々にも感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。また今回の台風で被害を受けた地域が少しでも早く復興できることを願っています。

学習旅行を終えて

学習旅行企画委員長 高等部 2 年 A・S

私たちは12月4日から3泊4日で三重県に学習旅行に行ってきました。初日の全体学習では四日市にある環境未来館で四日市ぜんそくと公害について学び、その後カトリック四日市教会で祈りの集いを行いました。2日目と3日目の班活動では、三重県でしか学べないことをそれぞれの班が学び、充実した活動ができたと思います。私は自然班でしたが、鳥羽水族館で見た「ジュゴン」は特に印象に残りました。最終日の全体学習では伊勢神宮を参拝しました。伊勢神宮は、他の神社とは違った雰囲気、力強さを感じました。

企画する上で、クラスメイトや企画委員との意見の

食い違いが出るなど問題もたくさんありましたが、無事に学習旅行を終えることができました。これからヨゼフ祭の展示発表に向けて準備が始まります。今一度気を引き締めて取り組んでいきたいと思っております。



寄り添う

聖書朝礼委員会委員長 高等部2年 H・C

今年度のクリスマス会は「寄り添う」というテーマのもと行われました。2019年は相次ぐ台風による豪雨や大雨などの自然災害が多く発生しました。そのような時、私たちはすぐ側で助けることは出来なくても、祈ることで被害に遭われた方々を支え、寄り添うことができるのではないかと、また、普段の生活でも家族や友達が苦しんでいるとき私たちはその人に寄り添うことが出来ているのだろうか、そのようなことを考えるきっかけになればと思い、このテーマにしました。

クリスマスまでの間、待降節の約束に心を留めながら生活をします。週ごとの約束があり、その約束を守れたら各クラスに掲示してあるツリーにシールを貼ります。今年度の約束は、第1週「心を含めてお祈りする」第2週「小さなことに感謝する」第3週「平和のために祈る」でした。また、ツリーはクリスマス会で奉納されました。他にもクリスマスまでの間、馬小屋を用意したり、クリスマスツリーを飾ったり、献金を呼びかけたりと様々な準備を進めてきました。

クリスマス会は高等部2年生音楽選択者によるハンドベル演奏「ママがサンタにキッスした～サンタが街にやってきた」から始まりました。事前の練習で失敗が続く苦戦し、また今年度は例年に比べ演奏者の人数が少なかったのですが、人数の少なさを感じさせない素敵な演奏になったと思います。その後クリスマスミサに与りイエス様のご降誕をお祝いしました。クリスマス会の最後を飾るハレルヤコーラスでは、生徒全員の声が響き渡っていてとても美しい合唱となりました。練習の成果を発揮できたのではないかと思います。今

回行ったクリスマス募金はカリタスジャパンを通じて世界の子どもたちのために役立てられます。合唱団キャロリング募金 24,736 円と中高部での献金 49,438 円を合わせて送金しました。ご協力ありがとうございました。

クリスマスが終わり 2020 年という新しい年を迎えましたが、誰かに寄り添う気持ちを忘れず、互いに支えあい、いつも神様からのお恵みに感謝しながら生活を送りたいです。



卒業に向けて

卒業式企画委員長 高等部3年 T・C

卒業式の企画が始まりました。私たちは卒業式のテーマを「志」としました。志には心に決めた目標という意味があります。私たちはこれまでの学園生活の中で、目標を決めながら取り組み、仲間との絆を深めてきました。様々な行事の中でぶつかり合うことが多い学年で、全員が一致団結することが難しいこともありましたが、しかしその度に目標を振り返り、話し合いを重ねていくことで、志をひとつに取り組んできました。その成果として合唱祭では2年連続で最優秀賞を受賞することができました。他にも多くの行事でそれぞれが個性を活かしながら活躍することができました。東星

学園での行事を通して、ひとり一人の心の中でたくさんの変化や成長があったと思います。

また、志には相手のために思う気持ちという意味もあります。東星学園で学んだ相手を思いやる気持ちを大切にしながらこれからの日々を過ごしていくことができるようにという思いも込められています。

学園生活も残り約1か月となりました。今も、それぞれが志を持ち自分の進みたい道のために頑張っています。一日一日を大切に、皆を思いやりながら最後の高校生活を悔いなく過ごしていきたいです。そして53期全員が笑顔で卒業式を迎えたいと思います。卒業式が終わるとそれぞれ別の道へと歩いていきます。この先も志を高く持ち、何事もあきらめずに進んでいきたいです。

小学校

第59回東星バザー

バザー委員

「晴れでなくていいから、雨さえ降らなければ」

10月の度重なる悪天候、日照時間も例年の3割ほどと報道される日々に、バザーが近付くとその願いを声に出して唱えていました。

子ども達は夏休みが明けると、各クラブで販売する商品を作ったり、担当するゲームを考えたり、準備を進めます。保護者の皆様には手作りの製作品やゲームの準備など、本当に多くのお力をいただきました。

体育祭が終わった頃から、5年生がウェ이터・ウェイトレスとして働く食堂の練習が本格化し、6年生の歌声広場の練習の声も、毎日響くようになります。バザーの一日をどう過ごそうか、何を買おうか遊ぼうか、どの学年も期待に胸が膨らみます。

地質の関係で、校庭や中庭に湖のような水たまりが出来やすい東星学園。屋外での行事の成功には、準備期間も含めて、「雨でないこと」が重要です。台風15号、台風19号と続き、体育祭も延期になったため、「雨さえ降らなければ」は本当に心からの願いでした。

そんな願いが通じたのか、暑くなく寒くなく、風もほぼなく、ちょうどよいお



5年生食堂



6年生歌声広場

清瀬市サッカー大会に出場して

サッカー同好会担当

11月の中旬、2週に渡って清瀬市少年・少女サッカー大会に出場しました。昨年度までは4年生以上に参加資格があったのですが、今年度は3年生も参加できるようになり、隔週で実施しているサッカー同好会の子たちを中心に参加を呼び掛けたところ、今年度は17名が参加を表明してくれました。8人制の大会なので、4・5・6年生8人で1チーム、3・4年生9人で1チーム、の東星学園からは2チームが出場しました。

先に試合となったのは4・5・6年生チームでした。試合開始早々、先制されます。相手は中学生くらいに感じます。大きく、速い。どちらのチームも強く、2試合して25点とられました。大敗しました。

3・4年生チームも初日は2試合。こちら相手は速くて、力強く、サッカーを知っている子たちでした。

3・4年生も2試合で24点取られます。そして、3・4年生は翌週に4試合が残っています。清瀬市のホームページで結果を見ることができですが、3・4年生はどの試合も10点以上とられています。得点はありません。相手ゴール前であと少し、という場面は何度かあり

天気に恵まれ、前日準備、そして当日を迎えました。

幼稚園、小学校、中学校、高校の様々な売り場が集まった体育館周辺は、一日中多くの人で賑わいました。

早々と売り切れの放送が入るコーナーもあり、準備の段階でうまくいくだろうかと心配していたことが全て吹き飛んでいく、盛況さでした。

今年のバザーは、児童の人数、ひいては保護者の方の人数が減少し、今までのやり方では運営できない部分が多くありました。

変更したり、削ったり、関わった人全員が知恵を絞りました。次回60回を数える東星学園の伝統を、時代に合わせて変化させていく、その時期に来ているのかもしれない。

それでも、「今日一日、楽しかった」「また来年、遊びにきたい」という声が聞こえる限り、規模を変えても続けていきたい、そう感じさせる一日となりました。

ました。このあと少しから先がとても遠いのです。相手はすするとボールを運び、点を決めていきます。そんな展開ばかりにも関わらず、くさらずにハーフタイムには、次はこうしてみよう、こういう作戦はどうだろう、ととても前向きでした。

毎回10点以上取られているので、失点を減らす、例えば自陣のゴールの近くでは迷わずに外に出す、ということを試してみました。それでも失点の機会は減るものの、勝てず引き分けにもならない状態でした。

そんな中で十小キッカーズとの試合が始まりました。試合開始、自陣のゴール近くでは外へ出すことを徹底して続けます。5分経ち、10分経ち、今までは開始1分でゴールを決められ、ずっと相手のペースで戦っていたのですが、今回は前半が終わって、0対0です。初めて引き分け、うまくいけば勝てる、かもしれない。後半になっても必死に守っています。0対0のまま、なんとか防いでいます。残り時間があと5分、あと3分。ここでチャンスが来ます。相手ゴール近く、しかし決められない、あと少し、のところでボールをとられ、今度は自陣のゴールまで運ばれて、そのままシュート、決まりました。直後に試合終了。負けてしまいました。

一勝もあげられませんでした。同じユニフォームを着て、気持ちを合わせて戦った二日間になりました。

展示会

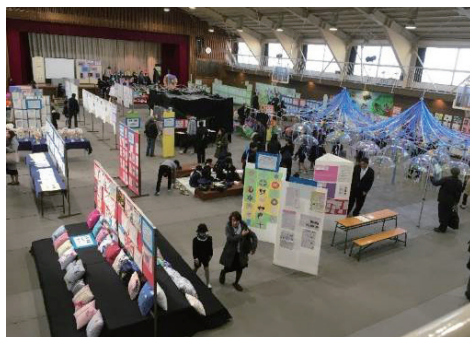
図工科

2年に一度の展示会、今年は「かがやけ東星ワールド」というテーマで日頃の学習の成果を発表しました。今回は教科、種類が多岐にわたり、見ごたえのあるものでした。6年生は9教科からの発表がありました。図工科の作品では一人ひとりのアイデアが詰まった作品や大きな作品もあり、展示会会場が一つの作品となって賑やかになりました。1・2年生はビニール傘がクラゲになったり、いろんな世界に変身しました。3年生はギター等の楽器を作りステージ上で発表しました。4年生は「光をあつめて」というテーマで東星の自然と共に光や水の一瞬をとらえた映像をスライドショーで発表しました。5年生は「Space World」というテーマで宇宙の乗り物を作り、ブラックライトのお部屋に光輝く宇宙の世界を作りました（1年生とのコラボ）。6年生は恒例の自画像と将来の夢の絵。緻密に描き込んだ線のタッチや、一人ひとりの思いを感じる力作でした。

今回の展示会では新しい試みが3つありました。一つ目は、5・6年生の社会やPC部は自分たちが調べたりまとめたものをQRコードで読み取って動画等で見てもらうものでし

た。5年生の算数や4年生の図工は映像で発表。宗教科からの発表もありました。二つ目は、作った作品をステージ上で発表する時間を設けました。3つ目は、5・6年生が受付や会場を案内するご案内係を設けました（時間の関係で発表も案内も初日の金曜日のみでした）。いろんなアプローチ、いろんな場面で、子どもたちの今の姿を見ていただくことが出来ました。また、展示会4日前に高学年の子どもたちがローマ教皇様歓迎のため、カテドラル教会に行った様子も急遽写真展示ができました。

2日間ともいいお天気に恵まれ、保護者の方をはじめたくさんの方に見ていただいた展示会でした。また同時期にベトレヘムの敷地内の聖ヨゼフホームギャラリーでも図工作品を展示しました。まさに東星ワールドが大きく広がり、輝いた展示会となりました。



2019 クリスマス会

宗教科

去る2019年12月19日（木）、クリスマス会が行われました。今回の呼びかけの言葉は「東の星が かがやくとき」。

東星学園の名前の由来となった「東の星」に導かれて博士たちがイエス様の元を訪れたように、私たちも神様の導きを感じながら準備をしてきました。

第1部はミサ。教皇フランシスコさまの来日もあり、「全ての命を守る」ことを確認し、祈りを捧げました。

第2部は5年生による聖劇（イエス・キリストの降誕劇）が行われました。11月の初頭から約1ヶ月半、



5年生はこの聖劇に向けて取り組んできました。

第3部は6年生の器楽合奏と、全校児童が演奏に合わせて歌う「みんなで歌おうクリスマス」。迫力ある6年生の演奏に会場が包まれました。

さて、東星学園小学校では、クリスマス会の約1ヶ月前から、各学年クリスマス会に向けて準備を始めます。

1年生はクリスマスカードを入れる箱作り、体育館に飾る天使・ベル作り。2年生はロビーの飾り付け。3年生はクリスマス会ポスター作り。4年生はロビーに飾る呼びかけの言葉の装飾作り。5年生は聖劇・プログラムの挿絵の担当。そして6年生は第3部「みんなで歌おうクリスマス」の器楽伴奏、クリスマスツリーの飾り付け（有志）です。

会の最後に、理事長シスター田代は、お言葉の中で、聖劇、馬小屋のことを説明してくださいました。

「アシジの聖フランシスコが文字の読めない人々のために大きな馬小屋を作り、本物の牛などを使って聖劇をし、それが馬小屋を飾る習慣になったと伝えられています。教皇フランシスコも馬小屋を大切にするように呼びかけています。」

私たちも、神の一人子が貧しい馬小屋で生まれた意味をかみしめながら、自分の行いを振り返り、東の星の導きを祈る必要があると感じました。

とうせいキッズ

ぐんぐんの三つのルール

とうせいキッズ職員

ぐんぐんには三つのルールがあります。毎年四月の初めのガイダンスの時に確認しています。以前からいた人も新しく入ってきた人もここで再確認したり、初めて知ったりします。ルールといっても当たり前と言えば当たり前のことばかりです。

一つ目は部屋に入る時、「こんにちは」と言って入る。二つ目は「制服をきちんと着て、上ばきを履く。」三つ目は「他の人の勉強のじゃまをしない。」です。

一つ目のあいさつですが、何も言わないと、だまって、すーっと入ってきて、こちらが「こんにちは」と言うと、うなずくだけというパターンが少なくありません。本来あいさつは自然に出てくるものです。でも人間としてまだ未熟な子どもたちには教えていく必要があります。もちろん当たり前前にできる子どもたくさんいます。

二つ目の制服をきちんと着るのですが、これも当たり前ですが、人によっては崩れた服装がいつもの姿になっている人もいますので必ず整えてもらいます。

三つ目はここではこれが一番大事なルールなのですが、他の人の勉強のじゃまをしてはいけません。勉強時間は三十五分。短いようですが集中が続くのはこれくらいです。

おやつを食べ終わった人から時計を見て、何時までやるかを決めます。四年生～六年生といういろいろな学年のいろいろな教科の学習をしています。今日は何をするか、何からやればいいのかは、それぞれが考えます。問題集を教えてほしい、漢字テストの問題を出してほしい。子ども達からのリクエストに応じてやっていきます。子ども達は自然に、明日までの宿題はぐんぐんでやろう、

漢字ノートは家でやろう。など自分で学習の計画を立てます。また、同じ学年で難しい問題を一緒に解いたり、上の学年の子が下の学年の子にヒントを与えたり、自然にそういった雰囲気になっていきます。

小学校の先生方とも、連絡を取り合っていていくことで少しずつですが学習に効果が出てきています。

塾ではありません。私たちは今その子に必要なサポートをしていくという考え方に立っています。

でも、なかには集中できなくて、他の人に話しかけたり、用もないのに立ち歩いたり、結局集中している人のじゃまをしてしまうこと、これが一番やってはいけないことです。

その他にも、ちょっとおもしろいことがあります。自由な時間やおやつを食べている時など、学校とも家とも違う場所だからでしょうか、何となく安心して、案外本音で話してくれます。

クラスで起きている問題や友達のこと、先生に対する要望などいろいろです。

時には、「先生から言ってよ。」ということもありますが、だいたいはいがいて終わってしまいます。でも、時には、「勇気を出して言ってみれば。」とか「やってみたらいいのに。」など、あと一歩を一押しすることもあります。ただ、だれかに聞いてもらうだけでも安心する。ここはそんな場所でもあるのかもしれない。



おやつの様子



学習の様子

幼稚園

「やってみよう」

副園長 堀田しのぶ

「自立した子どもを育てる」—これは、東星学園幼稚園が大切にしていることです。子どもたちが自分の体と心と頭を使って、自分のために、あるいは人のために行うことができる人になってほしい、そんな願いを持って日々を送っています。

ある日、交通安全のポスターを見つけた年長児が「これは大切なことが書いてあるからみんなが見えるところに貼っておこう」と窓ガラスに掲示することを思いつきました。みんなからよく見えるように高い位置に貼りたいと思い、椅子に乗って貼ろうとしますが思った位置には届きません。ならば窓の下の棚に乗れば届くかな？でも上ってはいけない？と迷っているのか、足を掛けては下ろし掛けては下ろし…先生の姿をチラッと振り返り…。結局、棚板の上に貼りました。「それでは見えないんじゃない？」と先生が声をかけると「でも届かない…。」という答え。「棚に乗ったら届くん

じゃない？」という先生の言葉に「え？いいの!？」と驚きながら慎重に棚に上がって貼り、「自分でできた!」「うん、できたね!」と先生と視線を交わしていました。

幼稚園は集団生活の場でルールがあります。「今はそれをする時間じゃないよ」「それは使い方がちがうね」と子どもに声をかけることもあります。棚は乗るところではない。なぜってそこは物を置くための場所だから。乗って落ちると危ないから。それを理解することは大切なことです。でも、何かの目的のために普段と違う使い方をするのはどうでしょうか？子ども達にはそれを考える人になってほしいのです。考えて出した答えに自信をもってやってみて「自分でできた!」を積み重ねてほしいのです。棚には乗ってはいけません。危ないっていわれるかな？そっと乗ったら大丈夫かな？上履きを脱いで靴下で上がるならいいかな？うん、靴下でそっと乗ってみよう!やった!できた!!

子ども達の生活には「なんだろう?」「どうしてだろう?」「知りたい」「やってみたい」があふれています。その答えを子ども達が自分の力で得ることができるように創意工夫することを応援します。「やってみようよ」という友だちがいます。支え、支えられて毎日の生活を送り、しなやかな体と心と頭が育っていきます。3学期が始まりました。次の1年への大切な導入の時期。「できた!」の積み重ねがさらにできますように。

幼稚園

クリスマス会

幼稚園職員

東星学園幼稚園が最も大切にしている行事の一つが「クリスマス会」です。東星学園幼稚園では、年長の子どもたちが主体となって聖劇を準備します。まず始めにクリスマスという日を迎えるまで、どんな心で過ごしたいかを話し合い、みんなでテーマを決める所から始めました。いつもやさしいイエス様のようにお友だちにやさしくしたい、お母さんのお手伝いをしたい。



という声があがり「やさしい心」というテーマに決めました。具体的には「ゆずる」「助ける」「手

伝う」ことを大切にしておごすことにしました。毎日一緒にいるお友だちと、時には喧嘩をしたりわがままを言うってしまう時もあるけれどそんな時はこれを思い出しながら過ごしました。

さて、聖劇はイエス様のご誕生について、絵本をたくさん読み深めるところから始めました。子どもたちが最初に興味を持ったのは戦争の場面でした。人々が戦争と貧しさの中、平和を祈り救い主を心待ちにしていたことを子どもたちなりに感じている様子。途中から年中・年少のお友だちも一緒に準備をします。配役は子どもたちが絵本を何度も読む中で、自分でやりたいものを決めました。年少さんはそれぞれが好きな動物役になりました。ごっこ遊びの中でのびのびと楽しみながら練習します。年中さんはそれぞれが自分の役をしっかりと意識して練習しました。年長さんは、役の気持ちにも想いを寄せ、練習する中で深めていきました。そして小道具も、もちろん子どもたちがアイデアを出して形にしていきました。大人があまり手伝わなくても楽しそうに作っている子が多かったです。大道具の背景は、去年みんなでつくったものなので愛着があります。こうして子どもたちが自ら準備し作り上げできました。

当日、おうちの方やたくさんの方に見ていただき、温かい拍手をいただきました。日々成長している子どもたち、神様や周りの方に守られて大きくなっていることに感謝したクリスマスでした。

第1回新入園児半日入園を通して

幼稚園職員

12月16日、新入園児半日入園がありました。この日は来年度入園する子どもたちが親子で在園児と関わり、園に慣れてもらう日です。

この日のため、在園児は朝から「小さい子が来る！」とドキドキわくわく。とても楽しみにしていました。今回は、リズム運動、お祈り（集会）、クリスマスの紙芝居の読み聞かせ、年中年長による合奏発表を行いました。

新入園児半日入園と言えば、ちょうど1年前を思い出します。1年前は今の年少児がお家の方と一緒に半日入園に来ていました。その時、緊張してお家の方となかなか離れられなかった子や泣いていた子がいました。しかし、1年後の今を見た時。元気に登園し、友達と遊んだり、ケンカをしたり、思い思いの姿で園生活を送っています。（入園したての頃は泣いていたこともあります。）1年前はまだまだ幼かった子達が、小さな友達に対してたくさんの優しさを見せてくれました。

こんなことがありました。思い通りにいかないと、

怒ったり、わーっと泣き出してしまおうA君。いつも何となく遅れがちなBちゃん。そんなA君とBちゃんですが、半日入園で小さな友達と手を繋ぎ、嬉しそうに案内をしていたのです。紙芝居を見る時も、小さな友達に見やすい席を譲っていました。普段の生活とは違った、ぐんと成長した姿を見せていたのです。

ほんの小さな出来事ですが、A君とBちゃんにとって小さな友達が来る＝自分はお兄さんお姉さんという自覚が出たのでしょうか。思わず「優しくしてくれてありがとうね」と声を掛けました。するとA君は「だって来てくれて嬉しかったから」と答えました。入園して一年足らずですが、こんなにも心が成長していたことに驚きました。私たち大人は目先のことや目に見える成長に注目しがちですが、大切なのは心の成長なのではないかと感じた一日でした。



みんなでお祈りしてみたよ

広 報

本学園の広報活動についてお知らせいたします。

【幼稚園】

プレスクール説明会
2月22日(土) 10時～11時

【中学校】

入学試験
第1回一般(2科・4科選択) : 2月1日(土)
適性検査型 : 2月1日(土)
第2回一般(2科) : 2月2日(日)

願書受付(インターネット出願のみ)
第1回一般 : 1月10日(金)～1月31日(金)

適性検査型 : 1月10日(金)～1月31日(金)
第2回一般 : 1月10日(金)～2月2日(日)
14時まで

【高等学校】

一般入試 : 2月10日(月)
願書受付(インターネット出願のみ) :
1月25日(土)～2月8日(土) 16時まで

☆中学入試、高校入試の2次募集や追加募集を実施する場合、本学園HPにてお知らせいたします。

参加をご希望の方は、本校HPより事前にご予約をお願いいたします。

一人でも多くの仲間をここ東星に迎えることができますように、今後とも皆さまのご理解とご協力をお願い致します。

学園行事予定(2020年2月～3月)

	中学校・高等学校	小学校	幼稚園
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学入学試験(1回～2回) ・ 中学学力テスト ・ 高校2年模試 ・ 高校一般入学試験 ・ 第2回父母会定期総会 ・ 数学検定 ・ 新入生制服採寸 ・ 漢字検定 ・ 卒業感謝のミサ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 節分 ・ 3年生クラブ訪問 ・ 児童会役員選挙 ・ 遊びバイキング ・ 高学年朗読大会 ・ 児童会役員認証式 ・ 3年生クラブ仮入部 ・ 3・2・1年生懇談会 ・ 新入生保護者会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 節分 ・ 第3回半日入園 ・ 第4回半日入園
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業式 ・ 期末テスト ・ 祈りの集い ・ 中学生ビブリオバトル大会 ・ 進級判定会 ・ 終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5・4年生懇談会 ・ 6年生を送る会 ・ 卒業感謝のミサ・6年生懇談会 ・ 卒業式 ・ 終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒園お楽しみ会 ・ 卒園式 ・ 終業式

園児・児童・生徒の活動報告

(小学校)

清瀬市秋季卓球大会

女子の部 第3位 6年いちよう組 M・R
男子の部 II部リーグ
準優勝 4年けやき組 T・T

第5回 多摩産材木工・工作コンクール

入賞 東星学園小学校アートクラブ4年生
O・S K・M T・M N・R

(中学校)

薬物乱用防止

「ポスター部門」

地区会長賞 中学3年 A・J
佳作 中学3年 T・R

「標語部門」

佳作 中学3年 T・Y

税についての作文・標語

作文 東京納税貯蓄組合連合会会長賞
中学3年 A・J
標語 東村山間税会会長賞
中学3年 N・A

私立中学校高等学校写真・美術展

特選 高校2年 S・K
入選 高校2年 T・A

カードアート大賞展 2019

奨励賞 高校2年 S・K

新年を迎えました。

東星学園も各学年まとめの時期を迎えています。

しっかりと4月からの歩みを振り返り、来る令和2年度も実り豊かな年になりますように。 (編集担当)